七騎落　弱法師

絃上

此巻ハ尾上ノ家ニ不出来ニ成候ヘ共
てゝ御守ニ成也　孝次郎
梅若清右衛門

特別
チ12
3643
12(12)

門 チ12
號 3499
卷 12

故
樗若誠太郎氏
昭和四年十月廿七日
梅若重戸氏
寄贈

帝國圖書館藏

七 謡落

オハ捨小舟うらこぎ出てもゝ〳〵甲斐ゝ
きやうこの海ゝ　思い兵法作
頼朝とい我ゝ也。梅を昨日石橋山
乃合戦ゝ味方うちまけ。頼ゝ立腹
よん弱ゝ一先安房上総乃方へひら
かぢやと海ゝ出肥の次郎

隨汗前太　藤原秀郷に味方之義を者
同心之者　安房上総の方へ引うつ
を敵方之者ゟ高ひく舟ゟ
射之　長てい　とくよう　汗前
乃を申付　高日で石ゟ
敵方に　寛平　汗前太
唯今　弘中より　使ひ　たら人　枝いう
あるで　長ゟ　只七騎　安房　敵
敵別　八騎　ゟ　高日　男　出る
中有　祖父　為義　せんへ　時
を　主従八騎　弟義　高日
主従八騎　高日　不吉　例也　寛平
まるしゟ　船　一人　作へ
長てい　寛平　行　舟　せんよ　立

あるべき御供乃人数を家来ども
一番より四代目
梅二郎より
ぶい乃沢郎より三番より
三良 四番ハ
武左衛門五郎の
家来ども同じ
板より
ざ
乃ゑ
龍門原より
出る
屋をば
けんぐい君
はいる
はいる
はいる

御供乃中に其一ぬ奉獄るゝ仏
祖よりしぐ愛御男にて立まゝこは
去と思ふ限りてがやうう
承ぬ去なよりしく御舟ゆうゝ
如是ぬまで いやくたれ乃
ほうくはまりぬ板よれて
いほどよ陸の西さたよれ いや

可捨武弄中よ命より物とも
ゆる者を御前取りあるされゝ
見ハつぎいのを所あれ
人当等おゝり配ゆる迄命及
ひゆ物を持てゝ二つ物ゆるれ
乃仏 明ぬ事も昨日迄ハ命
をゆ物ゆ早一つ乃いの

きゝ我君よしもとの城
を攻ハ作 こゝ事にて候 昨日石
橋山乃合戦ハ作 作者
田代与一義忠ハ副将軍をたゝ
候野ゝ組ゝ討きゝぶれい親子
ゝ一族二人の命おしゝや見ゝ出
肥後ゝ此ハ親子二形ゝ満ゝ人

ごゝ物ゝ遠平をおゝをかゝ
平を殺してこゝ物ゝ親子の内
一人ゝ残ゝ人 ゝ作 乃
道理ゝ物ゝ遠平
君ゝの御 ゝ作 ゝ高ゝ
御ゝ ゝ作 ゝ
ゝ物ゝ ゝ作 中ゝ乃

急であり候へ　遠平初くらの花武
乃御おぼすよりたむ乃御ようす労
ひとべき御舟ならいありまゝ候
こゝろ〻き事を下者小夫乃品為
父ゝ命にくいあるこゝ高ゝく御舟
より申上へいやく君の品為
父乃命をべ育先品あらいあり

まゝ候　試言語道断乃を
申あれ君乃品為父ゝ命をべ
ゝむくあり候きと下者を
あらべ人ゝよい為まゝで　指
ぬ君乃御門出あるこゝ誤る品
実平　何方ゝも其ゝ誤つゝく
候可参あり候きと者をあり

さしうつ墓守舟うりやうぎ
うう　上手　つに中ぐさらべ墓守舟
ようれとしべし　行とあるう
まぎれと戸かぐうし今社をしぐ
さくらへおきもをみよ敵大勢おせ出
ようかまへく墓ぐとゑ集て
ぎをぎやうにうちじよせよ

ぐるうれしきれ　上九
我をあ墓　真実年あ舟よまと
ぐうしかくうさしゑ哉と
だひぐを思ひ親子の別も
痛つや　上手　系　父ひうれいやよ子
君をぬめとまうや　上音　ぐよ名残
うて情へ　上青　波松浦さよ姫ぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

私うげをおやしを男やしを
ありぞも波人の舟やし
見て立肥前次郎さねひら家
たる舟ゆく立肥前の河舟を
ゆや中くしらず梅を出舟あり
をたる河舟みるそ 平さね和
男小太郎義盛と家ふる船ゆく

梅い和田乃河舟みるそう 平の
ゆ見ト通をおくゆ味方よ
ゆ見ト通をおくゆ味方よ
君いを河舟にはまう 和田四郎
ト合をたるゆ尾崎今しまり
てい出ぬぐ見たたる見る家
みゆるゆ和田乃へ

中に是を乃所に寄り目を覚さり
おぢ面目もあさましの乃能はの
夢ほどとうの我君を見しかが
れてうの如れ毎と成てうとよ
よ何と云いを所毎よりはあさ
ましや　言語道断の事
ゝは如に我味方をば思いで

月日も頼まれ朝夕の御ん
長命有くを行を忘てく自
宮よ及ばと腰乃力よりあるに
て詣ぬ毎に行と君
ちゝ毎よ所ゝや中くの
ことに佞臣のそかれよい所ぞ元
也戯ゝて作。李陸ゝは

ぶこの毋をもちて御こう
をもちて作り陸奥の對面
所まで
やうく陸へまいりたるに
つて中作御前の
君をたちてばかり安堵仕り
て作て言ちかの作いうて

出肥後の中作
御供乃中こで行ぶ御ぶ息遠年
ちのこ入りをぶ
謂ひ有く陸奥の所に置て作
ぶ前基よ四ぶを作さもられ
ぶ毋ぶ入ぶ

いで出肥のよしを出ものしたり陽
夏の毎底の遠年をひきて
[illegible]
貞に[illegible]
愛の現の[illegible]
[illegible]
きつね法の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

出でしよ葉も一所に
をりれば
ひうへより葉駒をもてこれを
河の急き馬
越てありぬ
底よりを上に見
なんぼう出肥
みちくしの
神の物語
仕りてを
や男
ゆ
唐衣
身

[illegible]

[illegible]

[illegible]

早河

弱法師

かゝれよゝ者ども門乃國高安郡里

ゝ難波の廚通俊と下ゝ

相も其かを一人物ゝ知もとゞ去人

乃讒言よりて堂より追失ひ

ゝ作ばりよ不便なる祖よ二世安楽

の爲天王寺にて一七日施行と

引ばへ今日も施りをひなせぎや
こなゆ（一セイ上ニ二ウ）（累）出入の月をみざれば明暮
つぐるかさうひをえぞきつる　あか
まの海の底みなくぐ深き思ひを入
やしろ（二月三）　（廿二）　支艦（エン）等（ワウ）の食（フスベ）の下よい
ざなるおもひを進（カナ）てこそ目（ボク）の松の
ひ（ウヘ）ゐ波（ナミ）を踏ぶかう恋（ウレヒ）ありぶ（イフン）やや

心有（アリ）ぶまあるぶ（アト）（四方）鳥（ウ）の子とぶり
で夏（ウキ）年（シ）月（ト）の流（レ）ぶ妹（モセ）ぶ山の
中（ア）に高（ソン）ぶ吉野（ア）ぶ桜（ヨ）のようや世（ト）
あひ（ア）ぶ（モ）ぶ果（ハテ）ぶ四方（ア）ぶ（ア）ぶ前世（ソ）
よ翔（ア）ぶ（ア）ぶ（ア）ぶ（ア）ぶ（ア）ぶ人（ト）の後（ア）
言（ジン）ぶうぶ（フ）孝（コウ）の罪（ソミ）よ（ア）ぶ（ア）ぶ
思（モ）ぶの涙（ア）ぶ（ア）ぶ雲（ウ）ぶ盲（モク）ぶ（ア）ぶ人（ト）

[illegible]
[illegible]
有乃道より来りて[illegible]
[illegible]
[illegible]
乃果罪[illegible]
[illegible]
[illegible]

御慈悲そと鐘を撞て詳集す
やはるとなるとへばう桜例
乃ち弱法師
て皆弱法師と仕有そや宮も
ふるい盲目ば弱車乃ち輪か
うらうらめさいあるをい弱法師と
若狭ものいとつかあり宮内
作る云乃塔とも心有きたまる
そやはるとなるとへばう桜
有がるや仏。やはれ事のはは
ばうる後此死散ばうたまるの作か
なるとなるとへばう梅乃花が弱法師
が袖よりなるとなるそらとうたく
やはる弱法師の去ならば順これ

花とうたて行方（ゆくへ）しらぬ雪も
なほ見ぬ梅の花を折りて頭（かうべ）さす
さらぬ後（のち）まで見しかど二月（きさらぎ）の雪は衣（ころも）の裾
にぞ降りける花の盛りやなほ残
る花を袖にうつしてだに見さむう
ち捨てりそもよ　中（なか）くなる事
求（もと）め国（くに）に遊（あそ）び法（のり）も放行（はなれゆ）きて

皆（みな）仏の大慈悲（だいじひ）よ　永（とこしへ）に
絶（たえ）ぬ法（のり）なりける　手（て）の合（がう）
袖（そで）にうつりぎて　青（あを）ばの花（はな）
散（ち）りの名（な）にうぐひす来（き）なく
梅（うめ）ばかりもなほ残（のこ）れるや難波（なにわ）の
法（のり）なる桜（さくら）ばかりたまに来（き）ぬ
整（ととの）ひ日（ひ）の細（ほそ）よいうきぬ雨（あめ）の難波（なにわ）の

[illegible]
海を頼みて[illegible]や盲亀の木に
[illegible]
でゝ[illegible]地まで梅ゞ枝の花乃去
[illegible]
[illegible]長岡はけさい[illegible]波乃法よりも
[illegible]
[illegible]
[illegible]夫仏日西天の雲よ
[illegible]
隠れ[illegible]慈悲[illegible]世まで[illegible]
[illegible]
[illegible]月の[illegible]
[illegible]
[illegible]

乃御前生震旦乃思禅師より
てづから給はり塔に安置し佛像を
造りたてまつる日域より至りたまひし法宝
物乃御本尊なるゆゑ霊験すこぶる無光
のごとくなりぬ事相違乃はなはだ
しきなり寺の内の法作
乃品々も赤栴檀の霊木にて
塔婆乃八金宝より生れたる同浮檀金
なりとや乃代よりあらん亀井の
水迄も水上清き而天乃無熱池の
池なりと申つたへ流えしさまを
迄も五濁乃人間に為て海底
乃魚をもらしめる波乃ちから
鐘の拝ごとに浦くまでなり

一一一

又寺の西門を出て極楽の東門より
出て辟する
の寺の西門を出て石の鳥居
阿字門より入て
弥陀の浄土も極楽の東門
の向の海
もぞよとやい荒面白や秋盲
目やあらばらさぞ踊法師が
作り見所
うらいでて難波しよ江月照し
松風吹く永夜の清景行の面白
や。行基の松蔦落ちて詠きば
月落ちて漢鴻山と詠しは
作ぶりげ三三
作ぶりげ入日や蔦かう

[illegible]日損[illegible]紀ま[illegible]ば暑のも波
の淡路絵浦[illegible]負摩州石紀乃
海をそ[illegible]ぐ[illegible]満目青山ハ
[illegible]ぐるよりの[illegible]
上地 [illegible]桜狭波の浦の波景乃数く
[illegible]南[illegible]
上地 [illegible]方ハ時[illegible]の緑

乃芋香山 上地 北ハづく雅波
[illegible]長橋の橋[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]
しさハ貴[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

かりやすくかいわりて後ろうへ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

きみとしぶれば高やまの雲に
ぬれてきぬらく

第十二

八重の塩路を千重に
いそぐとも
なすべきかたの大臣
なすべしと我が事也
扨も沙弗と申
天下を隠さるべきにて
ありけるとて
入唐の望海まで
より代度思召たちまち

西の月をも出雲ぎぬ為とぞ言の出
雲の方へ向かひて我を偽
いたづらのべを都の京まで来つま
よ様京ぞ出雲よりえ来るやう潟
もぐられて師まちやかく上言
ひ神の濃りくまぐのちぬ方の
月は出雲の杜に向かひ

師サレ

ばぐるの様出雲の道ぞ知らも見へ
もろこれかどで出雲見だいたる三の
ご風のちやうとよ様ふ名ぞ濃
のうちの言よりく濃ぐ
人狩よ見ぐやはの出濃のうに
出雲ぞ。猪此所よは休ありごとれ
由をも出雲ぞ。

一世イニ人ニ
半越

うら塩風　浦のうらきよもうら
ぼを　老の松　つもるうらぶを次
この浦　二人　海あまよりさやうらぶ　面
白や浦よ入白八海よりひ汐や
なのうらうらさま塩風く延出乃心
よもぼを面　上ツ上　南を
うらふなぐ　雪よつぐまうま

ぜ汐のが嶋　ミテ汐　中良の戸うらうま
や舟雲ぼ　ほひ風雲吹ら吹や
浦おうらしみよ　のれうこひま
海ごうみ　富嶋乃神やこ屋新ぬ
ものかそうかやしひもぐう　いそや
筆よもみぶうら　二人　ぬうら松ぬ汐
浦乃見えや　ぬうら面うき新

[illegible]の[illegible]やさ屋[illegible]いちがつ[illegible]あさ伊毎
[illegible]こぎいる[illegible]ごさ[illegible]入う[illegible]
[illegible]めやくめやくそうや陸
奥乃くに[illegible]塩[illegible]のこゝろ
[illegible]ぐさこゞ伊勢鳴やあ
こぎ[illegible]乃ちゝもゝび重[illegible]く
[illegible]乃[illegible]のちゝもゝ

[illegible]ふ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]の浦乃塩く
まむく　塩屋よりゝ伝まをる
みゝ　塩屋乃主ゆりてゝ宿を
かゝゞゝ[illegible]ふ見ある[illegible]屋
乃あるゝみゝく行るゝ　塩
屋乃主みゝ　[illegible]

法師長谷とて天下よりかたまり
なる霊場なれば
ぶべ唐乃上のぐうこうしたまふ御下
向あり一夜のお宿を奉り作へ
いやたよりうの人みな御感ぶ
とうらみし出宿を乞へ
経彼法りあり弘法ちうもんどへ

べき所なれば為乃うの組みしなさう
たぐ出宿をしまうら物作へ
ら人なぐらば出宿をまをしべ
一、一、一、

[illegible]
[illegible]や　かの猟やどりあはれ君
[illegible]夜のお宿を奏きて　秘曲をも
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]邑を捨べきれんへ　モロ上ヤん
の書うとよ。源氏物語の巻
めて夢のやうにひろうさをちらと
どもまぶ塩竈の猟衣のくげる源
の嘉[illegible]むの紙ごとひさるうぶひ
ひぐらぶく移よまりふんぬ男ふ
ちぬ風や吹くん　清是ヲ　それ浦波のごと

[illegible]地の上るれひぐらぶひぐらの
[illegible]扇るれやまきめれうやの行の扇
ひぐらぶまを狩のよさめや管絃のち
[illegible]何とくはひぐとび移
[illegible]ぶ村面の陰ん
狩よ。梅桜[illegible]ぶ村面
乃陰ぶぞやいふふぶ宮元ぶ山へ

それハ何の為ふてやらん　答テ答ふく
扨爲をかさわて　扨よ祇園やちん
と　祖父とうぢ　答ル
出しさつとみさ　塩ごまれの
ぐとりいつ　尊をそびて安居ふ
いうに主かほどゆらざる扨屋のしを行
しよ答ふて　答テ
遊さわ琵琶の調子の英錦扨やを
たく雨の音ハ盤涉ふて　狂ふ答ふて
扨やとみきうて　今社一調ふよ
べされべそりめよりぎくぶ思ひ
しよ心よりやびとをいうでふ
そうべき　取ふ口乃ほう出て
をのひさやきん琵琶の男

上地

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上 梅ぶえぶよ弘覺い
夢をうへ剛ゆうべ
覺めぬ宿人ぬ出河
ふるえも暁 梅べの立ん
何梅べの御言とや何ぶて
紀やさねぞと 文和 祖父と祖母い
もをぶり 是景 上時 紀貫もぶも

上 独を見ぬまやい横ぶ
浦乃の的て御立
剛 何よぶめぶ ぶ海
して重て見やぶ
給ぶや 二人 入れ行ぶ
我ぎぶやれ 天皇
紀貫乃御ぶ 上時 入唐

中入雷序

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]給ひ[illegible]八幡宮も
結宮乃傍[illegible]ひの敷をう
てゝ[illegible]琵琶の[illegible]
[illegible]の天皇をか
なで給ふ面ろの[illegible]秘曲の那
[illegible]
[illegible]法つくよりの珠や幼[illegible]
[illegible]
[illegible]大竜女よひ
[illegible]給へ[illegible]
[illegible]
[illegible]琵琶を[illegible]
[illegible]
[illegible]

十二終